

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070102007		
法人名	ケアサブライシステムズ 株式会社		
事業所名	グループホーム なでしこ		
所在地	群馬県前橋市関根町469-1		
自己評価作成日	平成22年10月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成22年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清潔保持に力を入れています。毎日全員入浴、排泄後の清拭対応。(体調不良の方やドクターストップの方以外)
 訪看体制がないホームですので、ホームドクターやご家族への対応、医療面での対応連絡は早い。家庭菜園をやっており、手作りの野菜や食材を提供しています。
 職員一人ひとりが利用者の為に明るく接している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「家庭的な食事・個別の外出・毎日の入浴」という利用者が生活していくうえで大事なところに手間を掛けて支援している。それは認知症になり施設での生活を送ることになっても、利用者一人ひとりが生活してきた基盤を継続させることであり、施設としては確保し続けなくてはならない部分である。その食事・外出・入浴が充実しているところがこのホームの優れている点であり、努力の結果である。また、管理者は職員に「やさしさや思いやりをもってこの仕事ができるか」と教育し、利用者の希望を記録に残しマンツーマン対応を心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有しホーム会議、申し送り時や機会あるごとに話し合いケアの方向性を確認している。目配り・気配り・心配りを大切に理念の実践に日々取り組んでいる。	地域密着型サービスのあり方を端的に示した独自の理念を掲げている。管理者と職員は理念を共有しながら「笑顔で真心込める支援」を心がけ、ホームでの生活を楽しくしてもらるように、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝行っている庭や駐車場の清掃時や天気の良い日の散歩時等、ご近所の方にはこちらから進んで声掛けや挨拶をしています。地域のリサイクル活動等で分からない事は教えて頂いている。自治会に加入しており、回覧板等で情報を知り、夏祭り・廃品回収等に参加している。	自治会に加入している。自治会長・民生委員・ボランティア会長等の協力を得て、地域行事の情報や意見等を頂き、運営に活かしている。最近ではメディアからの情報もあり、認知症やグループホームに対する地域の理解が得られていると管理者は実感している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議に参加して頂き、地域の方に認知症の利用者様にホームとしてどのように係わりを持っているかという情報を流したり質問事項に対してのアドバイスもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に開催している。状況報告や評価の説明報告を行い出席者からの意見や要望を受け話し合っている。ホーム会議で話し合いサービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に開催されており、利用者も参加している。活動状況や外部評価結果等の説明・報告を行い、話し合いを行っている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。消防署員の講義やAED講習会の際には、自治会を通して地域住民に参加を呼びかけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連携は本社の担当者が行っている。管理者は運営推進会議以外にも市の担当者に疑問や相談等を投げかけ、サービスの質の向上に活かしている。	法人の担当者が市の担当者と連絡を取り合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。法人の担当者はホームに出向く機会も多く、管理者と日常のホームの様子を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子の方の時、止めるのではなく、さりげなく声掛けし、少しの時間でも一緒にいて行く等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	身体拘束に関する研修は会議の中で行っている。玄関は施錠しており、リスク等を踏まえての家族等からの開錠への理解を得るのが、まだ困難な状況にある。法人として開錠に関しては、ホーム独自の判断に任せている。	指定基準で禁止している身体拘束とは、「身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為」であり、家族等と施錠することでの弊害とリスク等を話し合い、身体拘束を行わないケアへの実践と理解を目指してほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やホーム会議で勉強をし、申し送り等で職員間の情報交換や互いの振り返りを行うことで虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	サービスの利用や入院手続きなどの契約行為の際と成年後見人の存在が本人の権利を守る事となることを理解し、勉強会を開き職員の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制の実際など、介護報酬の改定や制度改正等により利用料が増加する場合など個別相談に応じ一方的な通達にならないように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族等の意見、要望があった場合は、すみやかにホーム会議や申し送り等で反映し、改善すべき所は改善し、ご家族がいつでもなんでも話せるホームとしている。又、玄関に意見箱を設置している。	家族等に電話で連絡した時、来訪時や運営推進会議等で意見・要望等を聞くようにしている。利用者と職員との相性を考慮しながら「今希望していること」を聞いている。意見・要望等は速やかに運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見をホーム会議や個別面談や職員会議をもち、職員の要望や意見を聞くように心がけている。不満や苦情等も管理者が相談にのり解決している。コミュニケーション作りに取り組んでいる。又、年二回の自己評価後のフィードバック時に本社担当者、管理者に意見も聞き反映させている。	管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心掛けており、会議等では職員から活発に意見等が出されている。意見等は業務日報に記入し、その内容を職員会議で検討している。職員の意見や気づきを運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別職員の業務や悩みを把握している。職員の資格取得に向けた支援を行っている。労働基準法に則って職員の労働条件を整えている。管理者や職員個々の努力や実績勤務状況を把握し、職員は向上心を持って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修と職員、管理者が参加し、研修内容をホーム会議で報告し資料等を閲覧し、職員一人ひとりがスキルアップに心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。研修に参加しており、地域の同業者との交流もあり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人の心身の状態や本人の思いに向い合い職員が本人に受け入れられる人間関係づくりに努めている。入所前にご本人ご家族にホーム見学して頂きホームの運営方針を説明、ゆっくり生活して頂ける環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談をする家族等の立場にたって、話をしっかり聴き、受け止めながら関係を築く。ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合いを行う。居宅介護支援事業担当のケアマネ等により情報を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思い、状況等を確認して改善に向けた支援の提案を行っている。早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と共に暮らす同士として「こだわり」や「苦しみ」「哀しみ」「不安」「喜び」「楽しみ」などの本人の思いを共感し理解している。お互いが協働しながら和やかな生活ができるように声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行うことや支援を求めている家族にいつも耳を傾けている。一緒に考えている自然な人間関係を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所を利用しても今までの生活の延長線上であるよう知人、友人等に会いに来てもらったり手紙や電話での連絡を取り持つ支援をしている。	孫の訪問時に髪のカットをしてもらったり、家族と馴染みの美容室に出かけている。職員は利用者でマンツーマンを基本に好みの草履等を買って出かけている。電話や手紙での連絡を取り持つ等、継続的な交流ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聴いたり相談にのったり、みんなで楽しく過ごす時間を作り、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。利用者同士と一緒に生活する仲間であると認識し関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の経過を年賀状・暑中見舞い等の季節のお便りにて問い合わせしている。又、利用者様より求めがあれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつでも笑顔で声掛けに気を付け、その人らしい暮らしができるよう支援している。	利用者の希望や思いを受け止めるために、職員が1対1になる場面を居室を利用して行い、利用者との会話を大切にしている。利用者の希望を記録に残し、申し送り時等で共有している。訴えの出来ない人の場合には、職員間で本人の視点にたって検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や生活習慣を本人、ご家族等から聞き、把握している。入居者様一人ひとりに寄り添った介護を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の着替え時には本人にその日の着る服を決めてもらったり一人ひとりのペースを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議、ケアマネジャーとの連携を保ち職員間で共有しながら日々のケアに活かしている。会議等で集まった意見を反映し介護計画を作成している。	本人・家族等の思いや意向を聞き取り、ホーム会議等で話し合い、意見等を反映させた介護計画を作成している。月に1回のモニタリングを基に、3ヶ月に1度の定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム会議、ケアカンファレンスを通して徹底した記録など行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人がしてほしい事や要望を取り入れて、1対1の対応をしている。一人ひとりの気持ちを尊重し自尊心を損ねるような言葉かけや対応等に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園、和太鼓、音楽教室の子供達の慰問等のボランティア活動を取り入れている。外食行事も毎月している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望している病院に受診をしているが、ホームの主治医にもその状況を伝え連携している。二週間に一回、ホームドクターの往診を受けている。	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。ホームの協力医が7名・入居前のかかりつけ医には2名がかかっている。訪問歯科支援がある。皮膚科等に関しては家族に受診をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者の健康管理や状態変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族とも回復状況等情報を交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と家族の安心と納得が得られるよう入居時やご本人の状態がわずかな変化であっても家族と話し合いを繰り返している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成しており、入居時に本人・家族等に説明して同意を得ている。状態等の変化に応じて家族等と話し合いを繰り返し、医師及び関係者全員で方針を共有し支援している。訪問看護ステーションとの契約は無く、現状では終末期の看取りは困難だと考えており、家族等にも伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時にあわてずに確実に行動がとれるように全ての職員が定期的に訓練を行いその後の連絡、対応方法等も身につけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て、年に2回昼夜を想定した、消火・通報・避難誘導訓練を利用者と共に実施している。自治会長を通して、地域の人々に災害時の協力を依頼している。災害に備えた備蓄の用意はしていない。	利用者や職員等が確実な避難方法を身に付けられるように、実践訓練の増加や職員だけの避難誘導の限界を踏まえて、地域との協力体制の構築に期待したい。災害に備えた備蓄の手配もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の居住空間を確保してプライバシーを配慮しており、利用者のその人らしい尊厳のある姿を大切にして言葉掛けに注意している。	その人らしい尊厳ある姿を大切に言葉かけや対応に配慮している。介護グローブの使用には気を配っている。利用者には役割を持ってもらい、ぬり絵・歌等楽しみごとは夜勤帯も含めて個別支援を行っている。買物も1対1の支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声を掛けて個人の状態に合わせて複数の選択肢を用意し利用者が自分で決めるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながらその人のペースを大切に、本人の希望を聞きながら外出したり、買い物に行ったりと個人を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時には援助させていくよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量により、食材の前処理や後片付けを職員と共にを行い職員と利用者が同じテーブルで楽しく食事出来るようにしている。	利用者は食材の下ごしらえ、おやつ作り等を職員と一緒にやっている。利用者の希望を取り入れ、バランスの取れた家庭料理が提供されている。利用者と同じテーブルで職員1名が同じ物を食べており、他の職員は隣のキッチンのテーブルで同じ物を食べているが勤務帯は休憩である。	利用者に細やかな個別支援を行っていることで、職員の休憩時間の確保が昼食時になっている。職員が利用者と一緒に同じ食事を楽しめる環境づくりや労務管理の観点から、職員増員等を含めた勤務体制の工夫に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が栄養バランスを考えて一週間の献立を作成し、一人ひとりの体調と水分量を個別に記録して確認しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は見守りをし出来ない方は毎食後のケアを行いブラッシングの介助を行い、口腔内の清潔保持を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ時プライバシーに配慮し、トイレ内での排泄も自立に向け排泄後の清拭を行っている。	排泄チェック表を使用し、昼間・夜間帯共にトイレでの排泄や排泄の自立にむけた個別の支援を行っている。水分摂取量にも注意を払っている。6名は毎回排泄時の清拭を行っている。清拭には温かいタオルを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時に牛乳を提供したり食事にもフルーツを取り入れたりして健康管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しみながらの入浴、入居者の組み合わせ、入浴剤にも好みを取り入れたりして楽しんで頂いている。	毎日入浴できる体制をとっており、一人ひとりの希望に合わせて支援している。入浴拒否の場合には、声かけ等の工夫をしたり、気が合う2~3人で入浴してもらうこともある。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤等で楽しんでもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの気持ちを尊重し20時の配茶、居室においてもプライバシーに配慮し安心して眠れるよう行っている。その他、本人の要望があればいつでも休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安心・安全をモットーに毎日の見守り確認、服薬後の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の好みを取り入れ夜の配茶、朝の配茶を楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一年を通して季節感を取り入れ七夕・バーベキューなど戸外に出かけ楽しんで頂いている。個人のしたい事、その他の要望に応じて対処している。	ホームは閑静な住宅街に立地しており、家庭菜園を楽しんだり、近所の公園等に散歩に出かけている。七夕祭りやバーベキュー、スーパー等へ食材の買物、個人の要望に応じた外食や買物等に出かけており、利用者が戸外に出て気分転換が図れるよう、日常的な外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が今ほしい物、又必要なものがある場合は預かっているお金で本人と一緒に又は、職員が代行して買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の電話の取り次ぎは至急本人に話し、連絡を取っている。又家族との手紙のやり取りも責任を持ってお預かりしている。本人から電話をしたい場合は応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔が第一ですので各箇所が違和感のないように色々な時点で、又季節に応じ対処して居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関に季節の花や妙義三山の絵を飾っている。共用空間は掃除が行き届き、無臭である。廊下の棚には保育園児が来訪した時のプレゼントが飾られている。壁には行事の写真が飾られ、観葉植物やテレビ・ソファ等が設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間や一人ひとりの居場所はとても大切にゆったりとくつろげる家であると理解してパブリックスペースとプライベートスペースの確保に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個人の部屋はそれぞれ好みの物を置いて居心地のよい空間になっている。	各居室には手作りカレンダーが飾られ、桐箆箆・衣装ケース・籐の椅子・家族の写真・本・時計等思い出の品々が持ち込まれ、本人が落ち着いて過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり各自の思いや希望を尊重して見守り、本人の個性をのびし、応援している。利用者が安全に洗濯や洗濯物たため、調理の手伝いができるようなの支援をさせていただいている。		